

第3回学校教育審議会における意見の整理

- ・第3回審議会において、実施方針(素案)に対して頂きました主な意見・提案等を以下のとおり整理しました。
- ・構成の都合上、文章を分割・簡略するなど、編集しています。

【対応欄: 凡例】

A: 意見を踏まえて実施方針(素案)を修正

B: 具体的な適正規模・適正配置の取組みの中で検討(素案に同意する意見・感想を含む)

C: 教育施策全般の取組みの中で検討

	主な意見	対応	修正箇所	
1	新しい教育方法が出てきている、学校教育が進んでいるのも然りですが、やはり小・中学生の育ちというのは、学校での教育が大切。子どもは、ある一定の人間関係の中で衝突を繰り返しながら交流を深めていくわけで、直接的な対話を含めて、育っていくという視点が抜け落ちてはいけない。	A	1	(1)
2	子どもの学びを考えていった時に規模が核になるんだという根拠をもっと出して、だからこそ、規模を優先するということを納得できるように提示をした方がよい。規模や適正配置を考えた時に、絶対にそこから発進しなくてはいけないと思っていることは「子どもの育ち」である。	A	1	(1)
3	多様な異なる価値観の中から調整しあって、新たな価値を生み出すためには、ある程度の児童数・学級数が必要ではないかといった部分の記述により厚みを持たせてもらおうとよい。	A	1	(1)
4	学級の規模を40人なり35人なりを前提としているのか、将来は少なくしていくのかを考慮して検討する必要がある。しかしながら、教員定数なども関係してくるため難しい部分だと思う、学びの質を考えた時に、今後、検討していく必要があると思う。	C	—	
5	今後、通学距離に関しては、距離だけではなく、公共交通機関などその他の要因も考慮して検討することも必要かと思う。	A	3	(2)
6	通学距離については、4キロ・6キロとなっているが、文科省の手引きでは、1時間以内という時間の設定もあるので、柔軟な表現でよいと思う。	A	3	(2)
7	適正規模であっても、1つの小学校が2つの中学校区にまたがっているような学区の不整合が起きている所があるが、今後、解消していく考えはあるのか。	B	—	
8	中学校については、いくつかの学校を選ぶことができるようにするのもよいのではないかと。地域の子どもが地域の学校に行かないというのは悲しいことだが、都市化が進む中で、地域の土着性というものを私たちも考えていかななくてはいけないと感じている。	C	—	
9	ひきこもりや不登校などが増えている中で、学校を選べるということになれば、限定された環境の中で固執する必要はないといった意識の改革が大人にも子どもにも起きるのではないかと。今回の方針策定では難しいかもしれないが、将来的には考えていただきたい。	C	—	
10	少子化への対応、活力ある学校づくりとして、規模重視という視点が示されたことに賛成である。但し、規模と配置のバランスには十分に気を付けて進めてもらえるとよい。	A	4	(2)
11	非常にフレキシブルになったと感じた。複数の中学校区を面で捉えるのではなく、小規模校を点で捉えるというB・Cの方法というのはとてもよい。	B	—	
12	中学校区というのは、地域コミュニティの基本となるので、歴史的にずれてしまったものを訂正していくということは、むしろ必要だと思うが、学校の統合のために異なる中学校区の小学校と統合するというのは、慎重になったほうがよい。	A	4 4	(2) (5)
13	検討の方法にあるBとCについて具体的に進むことは保、護者からしたら非常にありがたいと思う。保護者の方から聞く話や悩みとして、「人数が少なく単学級だが、隣の小学校が適正規模のため統合の話はなかなか出てこない」といった話を伺ったことがある。	B	—	

	主な意見	対応	修正箇所	
14	学校の小規模化が進んでいても、学校と学校の距離が遠くて統合ということが具体的にイメージできないと、よく聞いている。Cパターンの方法として一貫教育が示されたことで、少しでも解消されるのではないかと思う。	B	—	
15	小中一貫教育は、素晴らしい効果が期待できる反面、もし、うまくいかなかった場合の影響も大きいと思う。だからこそ、非常に重要になるので、丁寧に扱っていただきたい。	A	4	(2)
16	適正配置が困難だから小中一貫校ということではなく、もっと前向きな理由で進められるよう表現を検討してもらいたい。	A	4	(2)
17	小中一貫について、デメリットを埋めるためのものではなく、もっと前向きにそのメリットを生かして、小中学生の異年齢間の交流といったものが、この地域では必要な手立てという風に伝えていくとよい。	A	4	(2)
18	やはりクラス替えができないというのは、多様性という面からはデメリットであり、小中一貫にすることで、少しでも解消するということが子どもや保護者にわかりやすく提示していく必要がある。	A	4 3	(2) (1)
19	取組みの優先度については、当然、学級の規模で優先順位を付けるということによりよい。一方で、実際に取り組む際には、施設の老朽化にも目を向けるとよいと思う。ソフト面だけではなくハード面も併せて、優先度を考えていく必要があると思う。	A	4	(5)
20	中学校区の統合や学区変更については、地域包括ケアという視点では医療や介護などの面にも影響があるため、他の部署との連携をしっかりとってほしい。	A	4	(5)
21	優先度について、よくまとまっている。地元では「いつ自分たちの学校が統合の対象となるのか」とある意味では期待を持っている方もいるし、「いつまでたっても、統合などの話はこない、いつ改善されるのだろうか」という不安の声もある。取組みの優先度が、具体的な学校名を含めて分かりやすく提示されるとよい。	A	4	(5)
22	それぞれの学校に特色があるように、地域もその立地や歴史など、地域特性がある。そう考えると、子どもも学校によって様子が違うため、統合は慎重に行う必要がある。	A	4 4	(5) (2)
23	具体的な取組みの進め方として、子どもの意見を何らかの形で反映して欲しい。検討段階でアンケートを取るなど、対象校になる子どもの意見を聴きながら進めるということを検討いただきたい。	B	—	
24	進め方について、行政がある程度の具体的選択肢を示す。学校適正配置の案を示すということで、具体的に地元が検討を進めることができる提案だと思う。バランス、整合性、透明性に配慮して取り組んでもらいたい。	A	5	(1)
25	家庭や保護者だけでなく、地元を、地元代表協議会を巻き込んで取り組んでいく進め方は、よいと思う。	B	—	
26	進め方では保護者や地域などで話し合うようになっており、地域全体の合意形成を重要視するということが示されており、ひとまず安心した。	B	—	
27	教育委員会がより主体的に参画していこうということについて賛成である。	B	—	
28	進め方を4段階で整理しており大変丁寧な進め方といえる。教育委員会は主体的にリーダーシップを発揮する、学校・家庭・地域と十分に協議しながら進めていく、加えて公正・公平という点から、全市的な立場で見えていく必要がある。	A	5	(1)
29	今まで以上に適正規模・適正配置についてスピードアップしていかなければいけない状況だと思う。	A	5	(2)
30	色々な意見をまとめるために、あまりにも時間が費やされてしまうことは、子どもにとってもいい状況ではないのでスピード感をもって取り組んでいただきたい。	A	5	(2)
31	学校は、児童が減っているが広い敷地を有している。これをなくしてしまった際に、学校に求められている色々な機能の受け手があるのかと考えてしまう。	A	5	(2)

	主な意見	対応	修正箇所	
32	通学路の安全が重要になるので、セーフティウォッチャーをはじめ、各種安全ボランティアの活動などを明確に書き込むことにより、保護者等の安心につながる。	A	6	②
33	インクルーシブ教育という観点から、障害をもったお子さんも共に学んでいくので、そういったお子さんへの配慮を忘れないでほしい。	A	6	③
34	学校の跡施設の利活用と学校統合を明確に区別して進めるということは、非常に難しい問題であるが、とても大事なことだと思う。	A	7	(1)
35	統合と跡施設の利活用を個々に区別して進めるのはよいと思うが、学校がなくなってからどうするかを考えるのでは遅いと思う。主体が別であっても同時に並行して考えた方がよいと思う。	A	7	(1)
36	施設利用について、教育環境の整備と教育の質の充実を第一にして、跡施設利用は別段階、同時並行の場合はあっても、議論を別に行うというのは賢明な進め方だと思う。	A	7	(1)
37	あくまでも従来の教育方法、文部科学省の定めた学習指導要領に沿った教育を行うことを前提としているので、学校規模を前提とした議論になると思う。	B	—	
38	学校規模に関して、根拠の提示や計画は大事であるが、一番必要性を感じているのは保護者だと思う。「いろいろな子と遊ばせたい。学ばせたい。」と感じている当事者のことを考えて、取り組んでもらいたい。	B	—	
39	学校や教育を考える際に、現在の教育方法や制度にだけ目を向けるのではなく、世界に目を向けるなどして、これから先起こるであろう変化を予測しながら考えてほしい。	C	—	